



# 恕の心



令和4年10月14日 校長 廣瀬 真樹

## 丸内中学校文化祭スローガン決定！

文化祭スローガン決まりました！！



～こめられた意味～

自分の可能性を信じて、力を最大限に発揮する。

殻を破り、積極的に新たな人間関係を作る。

今までの壁を壊し新しい自分になる。



今の自分を脱ぎ捨て、新しい自分に向けて革命を起こす！

先日行われた生徒集会で令和4年度丸内中学校文化祭のスローガンの発表がありました。

「**革命**」・・・・・・・・・・なんだかとっても壮大なスローガンです。

このスローガンに込められた思いについてこんな説明がありました。

自分の可能性を信じ、それぞれの力を最大限に発揮する。殻を破り、積極的に新しい人間関係を作っていく。今までの壁を壊し新しい自分を発見する。・・・・・・・・・・

話は変わりますが、今NHKの朝ドラでは「舞いあがれ」という番組を放映しています。そのドラマでは、ヒロインの舞が長崎の五島列島で祖母と暮らすことになります。いろんなことに失敗し上手いかず、何をすることも臆病な舞に、祖母の祥子はこう言います。

「**失敗は悪いことではない、出来ないことは次に出来るように、出来ないなら出来ることを探すように**」

自分の殻を破り、新しいことに挑戦していくこと・・・・・・・・・・言うのは簡単ですがなかなか勇気がいるものです。誰も失敗するのは嫌だし、自分自身が落ち込んだり、心が傷つくこともある。でもほんの少しチャレンジすることで何か新しい発見があるかもしれない。新しい自分の可能性が見えるかもしれない。ほんの少しの勇気、小さな一歩が実は自分を大きく変えるきっかけになることが人生には結構あるものです。

「**革命**」・・・・・・・・皆さん一人一人の、ほんの小さな革命、チャレンジでも、それが新しい世界をひらき、自分の可能性を見つけ、丸中全体に広がっていくことになるのではないのでしょうか。

**文化祭、楽しみです！**

## 「弱虫ペダル」から学ぶこと



『弱虫ペダル』(作:渡辺 航)は、自転車競技に情熱を注ぐ高校生の友情と成長を描いた、累計発行部数2800万部の大ヒット漫画です。物語の舞台は、千葉にある自転車競技の強豪・総北高校。ここに通う主人公・小野田坂道は、アニメが大好きな高校1年生。スポーツとは縁がなかったがオタクの聖地・秋葉原まで往復90km、毎週ママチャリで通っていたことで並外れた脚力を手に入れる。そして、偶然出会ったロードレースに心ひかれ、自転車部に入部を決める。

先日、NHKで『ぼくらは漫画で強くなった「弱虫ペダル」』という番組がありました。その中で作者が言った言葉が私はとても印象に残りました。

「主人公がエースのパターンがスポーツ漫画のほとんどだと思うけれど、エースを任される人は世の中の一握り。ほとんどがその周りにいて、助ける人。表彰台に立てる人間でなく、その周りの人たちを描きたかった」・・・

ロードレースだとアシストと呼びますが、主人公の小野田坂道はまさにアシスト。チームのために自分を犠牲にして頑張ります。

先日の新人大会の章典収納でもたくさんの方が表彰されました。表彰台に立つために、勝つために頑張ることはもちろん悪いことではないし大事なこと。それがモチベーションや目標になっていることは事実です。ただ、表彰台に立つ人間こそ、アシストの存在を心の底から感じられているかが大切だと思います。言葉では「たくさんの人たちに感謝しています」とみんな口をそろえて言うけれど、本当に心の底からそれを感じられているのかは、本人の普段の言葉や行動に出るのだと思います。

また作者の渡辺さんはこういう話もしていました。  
「失敗してもいいので全力でやる、常に。全力でやった。でも結果は出ませんでした。僕はそれでもいいんじゃないかなと思ってます」  
「そこから次の目標ができていく。または、こうやったら、うまくいくんじゃないかと人は考える。だから『全力でやる』とか『もがく』ことってすごく大事だし、それは『弱虫ペダル』を通して子どもたちに伝えたいことの一つなんですよ」

学ぶことがたくさんある漫画です・・・ちょっと興味がわいてきました。







